

助成活動実績報告書

| | |
|-----|------------|
| 企画名 | 里山再生プロジェクト |
| 団体名 | あかいわ美土里の和 |

①活動の目的について

「赤磐市の自然環境を永続的に保持し、人と自然とが共存する循環型のまちづくり」を理念に生物多様性を維持する里山づくりをみんなで協力して活動することを目的とする。

②内容について（学習会、集会などは開催日や内容、参加者数など。設備・物品購入などの発注、納品、竣工、支払いなどの案件に関わる事実の掲載）

- * 5月12日（土）第2回自然観察会 参加者 40名（大人 30名、子供 10名）
★整備によってどのような動植物が生息するようになったかを調査する。自然の大切さを学ぶ。
- * 7月22日（日）第1回里山でスケッチの集い 参加者 30名（大人 20名、子供 10名）
★自分で見つけた木、花、虫など良く観察しながら絵にすることで、自然を深く観察する。
- * 8月18日（土）里山で学ぶ木工教室 材料収集 参加者 18名（大人 13名、子供 5名）
★素材は作りたい物にあった性質のものを選び、木の特製の多様性を学ぶ。
- * 8月18日（土）H24年度第1回里山整備作業 参加者 45名（大人 42名、子供 3名）
★昨年整備した場所を維持するために同場所を中心に整備する。里山整備は繰り返して作業することが大切であること、繰り返すことにより労力が減少していくことを体感する。
- * 8月19日（日）里山で学ぶ木工教室 作品作り 参加者 20名（大人 12名、子供 8名）
★子供も大人同様“肥後守”を使って作品を作る。技巧では大人に劣るが、独創性と根気は大人顔負けで、子供の無限の可能性を見出すとともに、大人が子供から学ぶことの多さを知る機会を得た。
- * 11月9日（金）～11日（日）里山フェスタ2012
展示会 （3日間） 参加者延べ 167名（大人 93名、子供 74名）
★スケッチ大会・木工教室の作品及び活動写真展示、昔遊びの実施。子供だけでなく、大人も竹トンボ・竹笛・紙鉄砲作りに熱中。作品や活動パネルを見て、里山活動の成果を共有してもらえた。里山摘んだ野草茶が好評で実用面でも評価を得た。
- シンポジウム（10日） 参加者 51名（大人 51名、子供 0名）
★千葉喬三就実学園理事長等有識者を囲んで里山の森と人との関わりをテーマにしたシンポジウム開催。環境問題だけでなく、クリーンエネルギー確保の場、教育の場としての重要性も認識された。
- * 12月15日（土）16日（日）H24年度第2回里山整備作業 参加者 61名（大人 51名、子供 10名）
★実施した里山整備エリアを維持し、新たにウォーキング可能エリアを拡張して市民の憩いの場としての充実を計る。9名の保育士の参加、並びに子どもづれ家族が4組あり参加者のすそ野が広がりを見せた。

③この活動によって達成された成果

※里山整備作業の成果<活動拠点の里山を“磐山”と呼ぶ。(赤磐市の磐と頂上に巨石がある理由)

- ① ‘11年度、’12年度各2回計4回の整備作業に延べ260余名が参加し、入山困難だった磐山に広場及び全長約2kmに及ぶハイキング山道を整備することができた。活動目的の1つである「里山づくりをみんなで協力して活動する」という成果があった。
- ②12年度第2回整備作業に地元保育園の園長を含む保育士9人が参加した。13年度カリキュラムに磐山遠足を取り入れたいとの申し出があった。
- ③山陽公民館から年2回の自然観察会を磐山で共同開催させてもらいたいとの依頼があった。
- ④磐山は元来、保健保安林であるが荒れてしまっていてその役を果たしていなかったが、まだほんの一部であるがいやし空間並びに自然学習の場とする成果があった。

※自然観察会によって達成された成果

‘11年度、’12年度計3回の自然観察会及び県東備地域森林課竺原課長の調査により、磐山に91種の樹木と34種の山野草が生えていることが確認された。その他鳥類12、哺乳類・昆虫類計16、等の生き物が確認され多様性に優れた森林であることが確認できた。まだ見つからない動植物もある。大団地に隣接した森林としては特に重要な地域だと認定された。

※磐山でのワークショップによって達成された成果

7月のスケッチ大会、8月の木工教室で、5歳～小4の子供が無数の可能性を暗示する才能と忍耐力を発揮、大人の手本となった。大人はもっと謙虚になるべきだとの反省させる成果があった

※里山フェスタ2012によって達成された成果

☆展示会場(3日間)①美土里の和オリジナルの“磐山健康茶”を作り試飲、多くの方から好評を得、磐山の恵みを広く知ってもらおう効果があった。②昔遊びのワークショップでは大人も多数参加、地域の大人と子供の絆を結ぶ成果があった。

☆シンポジウム

千葉喬三就実学園理事長、福島で家族と共に里山生活をされ原発事故で避難を余儀なくされた大塚愛様、前田俊英岡山の自然を守る会副会長、井上稔朗赤磐市長をパネラーにお願いをして、パネルディスカッションを開催。参加者とともに里山での環境問題・産業問題・教育問題・エネルギー問題について語り合い、多くの知識を共有することができた。

④今後の計画・展望について

以上の成果により地域住民が森林に親しみ、アウトドア生活を楽しむ場を一定程度確保することができた。しかし、里山整備はちょっとでも活動を止めれば、忽ち元の荒れた森林になる。磐山を維持、広げるためには継続のみが求められる。今後の計画として

※一般公募による年2回の里山整備作業の継続

※会員による随時の里山整備作業(一般公募のワークショップ等開催前の事前作業)

※一般公募による年2回以上の自然観察会の継続(66種の樹木に名札を着け終わっている。今後も名札付けを整備し、親しまれる森にする。磐山の生物百科事典を作成する。)

※磐山でのワークショップ及び展示会場・シンポジウムの継続開催

活動に沿ったテーマ・講師を選び、手作りで地道に回を重ねていく。

※展望については現在50名を超す会員がおり、多彩な能力集団となっている。能力に応じて活動に参加していることが継続の源になっている。行政も活動に理解を示し始め、発足当初からは考えられないほどの協力を得ているので、展望は明るいと思っている。

⑤写真等参考資料添付 デジタルカメラの場合、データもご提出ください。

H24 年度活動前提として

左：整備着工前
H23 年 10 月頃
右：H23 年度第2
回里山整備後
H24 年 1 月 30 日



H24 年度助成対象活動

I：第二回自然観察会（H24 年 5 月 12 日）

II：スケッチ大会（H24 年 7 月 22 日）



講師の説明

親子で講師に質問

講師の指導風景

ここまで描けました

III：木工教室（H24 年 8 月 18・19 日）

IV：H24 年度第 1 回里山整備（H24 年 8 月 18 日）



親子で作品づくり



県農林課長も参加
指導を受ける



下刈作業風景

講師の指導で素材集め

V：里山フェスタ 2012
（H24 年 11 月 9～11 日）

VI：H24 年度第 2 回里山整備
（H24 年 12 月 15・16 日）



パネルディスカッション

昔遊びワークショップ



15 日作業直前まで雨



16 日若い力



H24 年度第 2 回里山整備終了（16 日）
こんなにきれいになりました